

## 神経疾患

PRESENTED BY AMERICA'S BIOPHARMACEUTICAL COMPANIES

### 米国のバイオ・医薬品企業は、 500種を超える神経疾患治療薬を開発中

**米**国の研究開発志向型製薬企業は、アルツハイマー病、てんかん、多発性硬化症、パーキンソン病、脳卒中などの進行性の神経疾患治療薬547種を開発中です。これらの疾患は、患者とその家族に深刻な苦痛と困難をもたらすだけでなく、治療費用や欠勤、生産性の低下などにより、米国経済に年間数千億米ドルもの損失をもたらしています。例えば、米国アルツハイマー病協会によると、アルツハイマー病だけでも米国の経済的損失は年間で総額1,480億米ドル強に上ります。

現在、臨床試験段階または米食品医薬品局 (FDA) の承認待ち段階にある開発中の薬剤には次のようなものがあります。

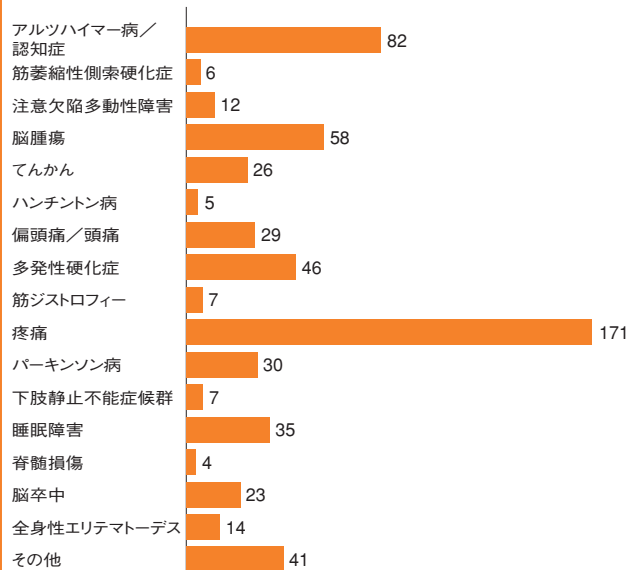
- ・ 疼痛治療薬171種 (慢性または再発性の疼痛を経験した米国民は7,650万人)
- ・ アルツハイマー病治療薬82種 (アルツハイマー病に罹患している米国民は500万人強)
- ・ 脳腫瘍治療薬58種 (原発性脳腫瘍に罹患している米国民は推計35万9,000人)
- ・ 多発性硬化症治療薬46種 (多発性硬化症に罹患している米国民は40万人強)
- ・ パーキンソン病治療薬30種 (パーキンソン病に罹患している米国民は150万人強)
- ・ 偏頭痛治療薬29種 (偏頭痛を抱える米国民は約2,950万人)
- ・ てんかん治療薬26種 (てんかんに罹患している米国民は300万人強)
- ・ 脳卒中治療薬23種 (脳卒中は米国において心臓疾患、がんに次ぐ第3位の死因)

その他、脳損傷、ハンチントン病、脊髄損傷、重症筋無力症、脳性小児麻痺、下肢静止不能症候群を対象とした治療薬も開発中です。

有望とされる新薬候補には次のようなものがあります。

- ・ 正常細胞を用いて、パーキンソン病患者に不足している神経伝達物質ドーパミンの脳内分泌量を高めるパーキンソン病治療薬

開発中の神経障害治療薬※



※2種類以上の分野に分類されている薬剤もある。

- ・ 受容体を選び出し、正常細胞には付着せず、悪性細胞の表面にのみ付着して破壊する膠芽腫 (脳腫瘍) 治療薬
- ・ 脳内の神経細胞の静止電位や電気的発火を調節する脳内の特定のタンパク質を活性化させるてんかん治療薬

現在開発パイプライン上にある新薬は、新しく、より効果的な治療を実現しようとしてきた製薬企業・バイオテクノロジー企業の努力を大きく前進させることになるでしょう。その結果、患者や医療従事者に、より効果的な治療、さらには新たな治療の可能性がもうすぐ生まれるという希望を与えています。これまでに築き上げ、現在も努力を続け、そして将来に向かって進んでいくこうした開発への取り組みは、患者がより長く、より健全で活動的に暮らせることに貢献する新しい医薬品を開発しようとする米国の研究開発志向型製薬企業の開発者の強い決意の表れということができます。

ビリー・トーザン  
PhRMA 理事長